

第4回 東京グローバル・ダイアログ

登壇予定者(2月15日現在)

(★モデレーター ◎パネリスト。モデレーター以外(パネリスト)はアルファベット順)

(以下のプログラムおよび登壇者は2月15日時点のものであり、変更される可能性があります。)

2月20日(月)

<オープニング>

ご挨拶

岸田 文雄 内閣総理大臣(予定)

内閣総理大臣及び自由民主党総裁。衆議院議員(当選10回)。2012年から2017年まで外務大臣。2021年10月から現職。

ご講演

林 芳正 外務大臣(予定)

2021年11月から日本国外務大臣。自由民主党所属の衆議院議員。東京大学法学部卒業、米国ハーバード大学ケネディ行政大学院修了。これまで、防衛大臣、内閣府経済財政政策特命担当大臣、農林水産大臣、文部科学大臣、教育再生担当大臣を歴任。

<『戦略年次報告2022』に関するラウンドテーブル>

◎**リサ・カーティス** 新米国安全保障センター(CNAS)シニアフェロー・インド太平洋部長

新米国安全保障センター(CNAS)インド太平洋部長。米国政府で20年以上の勤務経験を持ち、米国の対インド太平洋・南アジア政策を中心に、特に米印戦略関係、Quad(米・豪・印・日)、同地域における中国の役割に重点を置いて研究を進めてきた。カーティス氏は、2017年から2021年まで大統領副補佐官兼NSC上級部長(南・中央アジア担当)、2006年から2017年までヘリテージ財団の南アジア担当シニアフェローを歴任。また、それ以前は、上院外交委員会、国務省、CIA、イスラマバードとニューデリーの米国大使館に勤務した。NSCでの活動が評価され、2020年12月に国防長官賞(公共サービス優秀賞)を受賞した。

◎**ビル・エモット** 国際問題戦略研究所(IISS)理事長

ビル・エモット氏は、1980年に「エコノミスト」に入社し、ブリュッセル、東京、ロンドンで勤務した後、同紙編集長を1993年から2006年までの13年間務めたことで知られる作家、コンサルタント。現在は、国際戦略研究所(IISS)の会長、トリニティ・カレッジ・ダブリンのロングルーム・ハブ(芸術・

人文科学) 理事、英国日本協会、国際貿易研究所の理事を務めている。また、日本、アジア、20 世紀史、イタリアに関する 14 冊の本を執筆しており、2017 年には「『西洋』の終わり」を出版。最新作「Japan's Far More Female Future」は、日本語版が 2019 年 6 月に日本経済新聞社から、英語版が 2020 年に OUP 社から出版された。BBC で放映されたイタリアに関するドキュメンタリー「Girlfriend in a Coma」(2013 年) のプレゼンター兼共同執筆者、「The Great European Disaster Movie」(2015 年) のエグゼクティブ・プロデューサーを務めた。

◎ビラハリ・コーシカン シンガポール国立大学中東研究所会長、前シンガポール無任所大使

37 年にわたるシンガポール外務省でのキャリアにおいて、駐ロシア大使、ニューヨーク国連常任代表、事務次官など、国内外でさまざまな役職を歴任。現在はシンガポール国立大学中東研究所会長を務めている。シンガポール国立大学ラッフルズ研究所を卒業。米コロンビア大学で修士号取得。

◎國分 良成 慶應義塾大学名誉教授

1981 年慶應義塾大学大学院博士課程修了後、慶應義塾大学法学部専任講師、85 年助教授、92 年教授、99 年から 07 年まで東アジア研究所長、07 年から 11 年まで法学部長。12 年 4 月より 21 年 3 月まで防衛大学校長、19 年より慶應義塾大学名誉教授。この間、ハーバード大、ミシガン大、復旦大、北京大、台湾大の客員研究員を歴任。専門は中国政治・外交、東アジア国際関係。元日本国際政治学会理事長、元アジア政経学会理事長。著書に『中国政治からみた日中関係』(岩波書店、2017 年榎山純三賞)、『現代中国の政治と官僚制』(慶應義塾大学出版会、2004 年度サントリー学芸賞)、『アジア時代の検証 中国の視点から』(朝日選書、1997 年度アジア太平洋賞特別賞) など。

◎史志欽 (シ・シキン) 清華大学教授・一带一路戦略研究院執行院長

清華大学一带一路戦略研究院執行院長、清華シンポジウム事務局長、シンクタンクセンター副主任、社会科学学院教授、博士課程指導教授。清華大学人文社会科学学院・社会科学学院党委書記、国際関係学科長を歴任。『シルクロード百科事典』雑誌編集長、中国高等教育学会「一带一路」研究分会副理事長、中国国際共産主義運動史学会常務理事、中国ヨーロッパ学会理事を兼任。研究テーマは、「一带一路」構想、国際関係、比較政党・政府、欧州政党政治、社会民主主義、中欧関係。数百の学術論文や評論を発表しており、代表作に『イタリア共産党の変容とイタリアの政治変革』『グローバル化とヨーロッパ社会民主党の変容』などがある。

★佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長

公益財団法人日本国際問題研究所理事長。1974 年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。北米第二課長、北東アジア課長、内閣総理大臣秘書官、総合外交政策局審議官、経済局長、アジア大洋州 局長、

外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任。2018年6月より現職。多くの対外経済交渉を手掛け、また「六者協議」の日本代表、G8サミットの政務局長を務めるなど、外交官として豊富で幅広い経験を持つ。岡山県出身。

2月21日（火）

◆パート1：米中競争とインド太平洋

<米中競争とインド太平洋（1）政治・安全保障>

◎範士明（ハン・シメイ） 北京大学教授・燕京学堂副院長

北京大学国際関係学院教授。北京大学燕京学堂副院長を兼任。国際関係史、米中関係、国際コミュニケーション政治学などの講義を担当。研究テーマは、国際関係におけるイメージ、認識、世論、コミュニケーション。北京大学で国際政治学の学位（1990年学士、1993年修士、1999年博士）を取得。ハーバード大学フェアバンク東アジア研究センター客員研究員（1998年）、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科（GSAPS）客員研究員（2013年）、新潟大学客員教授（2002～2003年）、ノルウェー・オスロ大学客員教授（2016年）を歴任。

◎ビラハリ・コーシカン シンガポール国立大学中東研究所会長、前シンガポール無任所大使

37年にわたるシンガポール外務省でのキャリアにおいて、駐ロシア大使、ニューヨーク国連常任代表、事務次官など、国内外でさまざまな役職を歴任。現在はシンガポール国立大学中東研究所会長を務めている。シンガポール国立大学ラッフルズ研究所を卒業。米コロンビア大学で修士号取得。

◎菊池 努 青山学院大学名誉教授／日本国際問題研究所上席客員研究員

一橋大学大学院法学研究科博士課程修了（一橋大学より博士号取得）、南山大学法学部教授などを経て1996年より青山学院大学国際政治経済学部教授。ブリティッシュ・コロンビア大学客員教授、東南アジア研究所（ISEAS）およびオーストラリア国立大学客員研究員などを歴任。主著に「APEC：アジア太平洋新秩序の模索」など。共著に『アジア太平洋の多国間安全保障』（日本国際問題研究所、2003年）、『アジア地域秩序とASEANの挑戦——東アジア共同体をめざして』（明石書店、2005年）、『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』（千倉書房、2010年）、『ASEAN再活性化への課題——東アジア共同体、民主化、平和構築』（明石書店、2011年）など多数。日本国内のみならず、国外でも多くの研究プロジェクトに携わる。

◎李忠勉（イ・チュンミョン）韓国・国立外交院外交安保研究所(KNDA-IFANS)所長

現在、韓国外交部傘下の国立外交院外交安保研究所（KNDA-IFANS）所長。前職は国際安全保障担当大使、外相特別補佐官（2020年11月～2022年8月）。1992年の外交部入り後、北米第一課長(2009年8月～2011年7月)、北米局審議官(2017年2月～2017年11月)、駐中国韓国大使館公使・参事官(2011年7月～2015年2月)などを歴任し、韓米・韓中関係の第一線で従事。また、平和外国企画団長(2017年11月～2018年11月)を務めるなど、南北関係の専門家の人でもある。専攻は法学、ドイツ文学、中国語。ソウル大学卒業、米ジョージタウン大学ロースクール修了、NY州弁護士資格を所有。

◎スーザン・ソーントン 全米外交政策委員会（NCAFP）アジア太平洋安全保障

フォーラム・ディレクター

スーザン・A・ソーントンは、2017年から18年まで東アジア・太平洋担当国務次官補代行を務めた元米国キャリア外交官。現在、イェール大学法学部客員講師、同大法学部ポール・ツァイ・チャイナ・センターのシニア・フェローを務める。全米外交政策委員会アジア太平洋安全保障フォーラムのディレクター及びブルッキングス研究所のノン・レジデントフェローも務める。

★久保 文明 防衛大学校長／日本国際問題研究所上席客員研究員

防衛大学校長、日本国際問題研究所上席客員研究員、東京大学名誉教授。1956年東京生まれ。東京大学法学部卒、法学博士(東京大学)。筑波大学・慶應義塾大学・東京大学教授等を経て2021年より現職。コーネル・ジョンスホプキンス・ジョージタウン・メリーランド各大学での客員研究員、パリ政治学院招聘教授、ウッドローウィルソン国際学術センター研究員、アメリカ学会会長等を歴任。主要著書に『アメリカ政治史』(有斐閣)、『アメリカ政治史講義』(共著、東京大学出版会)、『アメリカ政治の地殻変動-分極化の行方』(共編著、東京大学出版会)、『アメリカにとって同盟とはなにか』(編著、中央公論新社)、『希望の日米同盟』(共監修、中央公論新社)など。

<米中競争とインド太平洋 (2)経済>

◎シロー・アームストロング オーストラリア国立大学准教授

オーストラリア国立大学アジア太平洋学部クロフォード公共政策大学院経済学准教授。豪日研究センター所長、East Asia Forum 編集長、東アジア経済研究局長を務める。慶應義塾大学客員教授、コロンビア大学ビジネススクール日本経済・ビジネスセンター研究員、経済産業研究所客員研究員、ニュージーランド APEC 研究センター研究員も務める。ASEAN・東アジア経済研究センター (ERIA) の研究機関ネットワークのオーストラリア代表を務めている。

◎エミリー・ベンソン 戦略国際問題研究所 (CSIS) シニアフェロー

戦略国際問題研究所(CSIS)貿易チーム シニアフェローとして、主に大西洋地域の貿易・技術問題を担当。CSIS 入所前は、ベルテルスマン財団で貿易・技術政策を中心に米欧間の法的関係を担当。また、美術品市場におけるマネーロンダリング対策や、国際法律事務所での制裁や輸出管理問題についての業務経験を有する。The Washington Post, Foreign Policy, The Japan Times, The Diplomat, Politico などの出版物への寄稿や、国内外のテレビ・ラジオなどに出演、意見を述べている。コロラド大学で国際問題と政治学の学士号、スイスのジュネーブ大学で政治学の修士号を取得。フランス語が堪能で、フランス、インドネシア、スイスでの海外生活経験がある。

◎城山 英明 東京大学教授

1989年東京大学法学部卒業。1994年東京大学大学院法学政治学研究科助教授、2006年東京大学大学院法学政治学研究科教授。東京大学政策ビジョン研究センター長(2010-2014年)、東京大学公共政策大学院院長(2014-2016年)、未来ビジョン研究センター長(2021年～)を兼務。専門は行政学で、国際行政、科学技術と公共政策、政策形成プロセスについて研究している。主要業績に、『国際行政の構造』、『中央省庁の政策形成過程』、『国際援助行政』(東京大学出版会、2007年)、『国際行政論』、『福島原発事故と複合リスク・ガバナンス』、『Governance of Urban Sustainability Transitions: European and Asian Experiences』、『科学技術と政治』、『グローバル保健ガバナンス』等の著作がある。

◎ヴォ・トリ・タン 中央経済管理研究所 (CIEM) シニア・エキスパート

元中央経済管理研究所(CIEM)副所長。現在は、ベトナム太平洋経済協力会議(VNCPEC)委員長、国家金融・通貨政策諮問委員会委員を務める。また、ブランド・競争力戦略研究所(BCSI)所長も務める。オーストラリア国立大学にて経済学修士号および経済学博士号を取得。貿易自由化、国際経済統合、マクロ経済政策に関連した調査・コンサルティングを行う。その他、制度改革、金融システム、経済開発などにも関心を持つ。

◎張蘊嶺 (チョウ・ウンレイ) 中国社会科学院(CASS)学部委員／山東大学招聘教授

・ 国際問題研究院院長

中国社会科学院(CASS)学部委員、山東大学招聘教授・国際問題研究院院長。過去に中国人民政治協商会議全国委員会委員、外事委員会委員を務める(2002~2018.3)。CASS 国際研究部長(2007~2018)、CASS アジア太平洋研究所長(1993~2007)、CASS 日本研究部長(1995~2001)、中国アジア太平洋学会会長(1994~2017)を歴任。過去に東アジアビジョングループ委員(2000-2001、EAVG II、2012-2013)、中国・ASEAN 協力に関する公式専門家グループ委員(2001)、ASEM タスクフォース委員(2003-2004)、EAFTA に関するフィージビリティスタディのための合同専門家グループ議長(2005-2006)、CEPEA 合同専門家グループ委員(2006-2009)、中国・韓国合同専門家委員会中国側主席(2010-2013)、中日友好21世紀委員会委員(2003-2008)等を務める。現在、中韓友好協会副会長を兼任。近著(書籍)：『中国とアジア地域主義』(英語、2010)、『中国と世界：新しい変化、理解、位置付け』(中国語、2011)、『中

国と世界の良性関係を求めて』(中国語、2013)、『理想と現実の狭間で-東アジア協力を考える』(中国語 2015、英語、2019、韓国語 2021)、『世界の大潮流を知る』(中国語、2021)。

★深川 由起子 早稲田大学教授

東アジアの貿易と経済発展を専攻。日本貿易振興機構 (JETRO)、長銀総合研究所、青山学院大 学経済学部助教授、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授を経て 2006 年より現職。2014 年 Cambridge 大学訪問研究員、2015 年韓国・延世大学訪問研究員。外国為替審議会、産業構造審議会などの政府委員を多数歴任。第 15-16 期日本学術会議会員。共編著に Chatham House “Beyond “Abenomics”: Japan’s integration catch-up and prospects for Japan-UK cooperation” (2019)、『アジア経済論』、日本評論社、2017 年、『これからの日本の国際協力』、日本評論社、2015 年など。

<特別セッション 日本周辺の海洋安全保障>

◎リサ・カーティス 新米国家安全保障センター (CNAS) シニアフェロー・インド太平洋部長

新米国家安全保障センター(CNAS)インド太平洋部長。米国政府で 20 年以上の勤務経験を持ち、米国の対インド太平洋・南アジア政策を中心に、特に米印戦略関係、Quad (米・豪・印・日)、同地域における中国の役割に重点を置いて研究を進めてきた。カーティス氏は、2017 年から 2021 年まで大統領副補佐官兼 NSC 上級部長 (南・中央アジア担当)、2006 年から 2017 年までヘリテージ財団の南アジア担当シニアフェローを歴任。また、それ以前は、上院外交委員会、国務省、CIA、イスラマバードとニューデリーの米国大使館に勤務した。NSC での活動が評価され、2020 年 12 月に国防長官賞 (優秀な公共サービス賞) を受賞した。

◎頼怡忠 (ライ・イチュウ) 台湾遠景基金会理事長

台湾遠景基金会理事長。2007 年から 2008 年には民主進歩党国際事務部主任、2006 年から 2008 年には民主進歩党中国事務部主任を務めた。それ以前には、2000 年から 2003 年に台北駐日経済文化代表処にて特別顧問、1999 年から 2000 年に民主進歩党駐米代表処主任、2013 年から 2016 年に財団法人台湾智库副理事長を歴任。バージニア工科大学で博士号を取得。コーネル大学で客員研究員。

◎武居 智久 三波工業株式会社特別顧問／日本国際問題研究所客員研究員／

元海上幕僚長

1957 年、長野県生まれ。三波工業特別顧問、元海上幕僚長・元海将。防衛大学校 (23 期)、筑波大学大学院地域研究研究科修了 (地域研究学修士)、米海軍大学指揮課程卒。海幕防衛部長、大湊地方総監、海幕副長、横須賀地方総監を経て 2014 年に海上幕僚長に就任、16 年に退官。20 年まで米海軍大学教授兼米海軍作戦部長特別フェローを務めた。翻訳に『中国海軍 vs 海上自衛隊』(ビジネス社)、海洋安全保障に関する論文多数。

★小谷 哲男 日本国際問題研究所主任研究員／明海大学教授

日本国際問題研究所主任研究員、明海大学外国語学部教授を兼任。専門は日本の外交・安全保障政策、日米同盟、インド太平洋地域の国際関係と海洋安全保障。米ヴァンダービルト大学日米センター研究員、海洋政策研究財団研究員、岡崎研究所研究員、日本国際問題研究所研究員を経て2020年より現職。主な共著として、『現代日本の地政学：13のリスクと地経学の時代』（中公新書、2017年）、『アジアの国際関係：移行期の地域秩序』（春風社、2018年）、『アメリカ太平洋軍の研究：インド太平洋地域の安全保障』（千倉書房、2018年）。平和・安全保障研究所安全保障奨学プログラム第13期生（2006年～2008年）。平成15年度防衛庁長官賞受賞。

◆パート2：ウクライナ紛争の衝撃

<ウクライナ紛争の衝撃（1）政治・安全保障>

◎ビル・エモット 国際問題戦略研究所（IISS）理事長

ビル・エモット氏は、1980年に「エコノミスト」に入社し、ブリュッセル、東京、ロンドンで勤務した後、同紙編集長を1993年から2006年までの13年間務めたことで知られる作家、コンサルタント。現在、国際戦略研究所(IISS)の会長、トリニティ・カレッジ・ダブリンのロングルーム・ハブ（芸術・人文科学）理事、英国日本協会、国際貿易研究所の理事を務めている。日本、アジア、20世紀史、イタリアに関する14冊の本を執筆しており、2017年には「『西洋』の終わり」を出版。最新作「Japan's Far More Female Future」は、日本語版が2019年6月に日本経済新聞社から、英語版が2020年にOUP社から出版された。BBCで放映されたイタリアに関するドキュメンタリー「Girlfriend in a Coma」（2013年）のプレゼンター兼共同執筆者、「The Great European Disaster Movie」（2015年）のエグゼクティブ・プロデューサーを務めた。

◎兵頭 慎治 防衛省防衛研究所政策研究部長

専門は、ロシア地域研究、国際安全保障論。1994年上智大学大学院国際関係論専攻博士前期課程修了。1996～98年外務省在ロシア日本国大使館政務担当専門調査員。2001～03年内閣官房副長官補付内閣参事官補佐。英国王立統合国防安全保障問題研究所（RUSI）客員研究員、ロシア・東欧学会副代表理事、内閣官房国家安全保障局顧問を歴任。現在、慶應義塾大学東アジア研究所研究員、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科兼任講師、国際基督教大学（ICU）非常勤講師を兼任。著書、論文、メディア出演等多数。

◎セルギー・コルスンスキー 駐日ウクライナ大使

駐日ウクライナ特命全権大使。理学博士。ウクライナ外交アカデミー所長（2017年～2020年）、駐トルコ共和国ウクライナ特命全権大使（2008年～2016年）、ウクライナ外務省経済局局長（2006年～2008年）、在米ウクライナ大使館公使参事官・大使代理（2000～2005年）、ウクライナ外務省経済協力局次長（1999-2000年）、在イスラエル・ウクライナ大使館経済担当参事官（1995-1998）、国家科学技術委員会

国家研究開発プログラム部部長（1991～1994年）などを歴任。エネルギー、貿易・投資政策、エネルギー安全保障、地域安全保障、科学技術など、戦略的計画・開発に関する幅広い専門的経験を有し、地政学の専門家として知られている。7冊の著書を含む320以上の学術論文の著者であり、主なものに"Nonlinear waves in dispersive and dissipative systems with coupled fields" (Addison, Wesley, Longman, 1997), "Technology Transfer in the United States" (Kyiv, 2005), "Energy Diplomacy" (Kyiv, 2008), "Foreign Policy in Times of Transformations" (Kharkiv, 2020)がある。

◎アンドレイ・コルトゥノフ　ロシア国際問題評議会（RIAC）会長

1979年、モスクワ国立国際関係大学（MGIMO）卒業。1982年、ソ連科学アカデミー・アメリカ・カナダ研究所大学院修士課程修了。歴史学の博士号を取得。ロンドン、ワシントンのソ連大使館、国連ソ連代表部にてインターンシップを経験。1982年から1995年まで、米国・カナダ研究所で副所長を含む様々な役職を歴任。カリフォルニア大学バークレー校をはじめ、世界各地の大学で教鞭をとった。また、高等教育、社会科学、社会開発に携わる複数の公的機関を率いた。2011年より、RIAC事務局長。また、ロシアおよび国際機関の専門委員会、監督委員会、評議員会も兼務。専門は現代国際関係論、ロシア外交政策。

◎イアン・レッサー　ジャーマン・マーシャル基金（GMF）ブリュッセル事務所

副所長兼エグゼクティブ・ディレクター

イアン・レッサーはGMFの副所長を務め、エグゼクティブチームの一員である。ブリュッセル事務所のエグゼクティブ・ディレクターも務め、地中海やトルコを含む大西洋両岸関係の活動を主導している。専門は米国の外交政策、欧州及び中東の安全保障問題。GMF以前は、ウッドロー・ウィルソン国際学術センターの公共政策スカラー、太平洋国際政策協議会の副会長兼研究部長、ランド研究所で10年以上にわたり戦略研究を専門とする上級アナリスト兼研究部長を務めた。1994年から1995年まで、米国国務長官の政策立案スタッフとして、トルコ、南欧、北アフリカ、中東和平プロセスの多国間トラックを担当した。

◎H.K.シン　デリー政策グループ（DPG）所長／元駐日インド大使

日本やインドネシアをはじめとする数カ国において大使を歴任。駐日インド大使を務めた。外交官として米国、西ヨーロッパ、欧州連合、国連、インドの近隣諸国（南アジア、東南アジア）に対する重要な任務を歴任。2011年から2016年まで、シン大使はニューデリーのICRIERで議長兼教授を務めていた。2016年6月にインドで最も歴史のある独立系シンクタンクであるデリー政策グループ所長に就任。2022年11月、インドとの友好関係促進に寄与したとして、日本政府から「旭日大綬章」を授与された。

★遠藤 乾　東京大学教授／日本国際問題研究所客員研究員

北海道大学法学部卒業、北海道大学大学院法学研究科修士課程修了、ベルギー・カトリック・ルーヴァン大学大学院修士課程修了、オックスフォード大学博士課程修了（政治学博士）。北海道大学法学部助手、

同講師、同助教授、同教授を経て、2022年より現職。他、欧州大学研究所ジャンモネ研究員、欧州大学院フェルナン・ブローデル上級研究員、パリ政治学院・対外経済貿易大学・国立政治大学客員教授等を歴任。専門はEU、安全保障、国際政治。主な著作は『欧州複合危機－苦悶するEU、揺れる世界』（中公新書、2016年）、『統合の終焉－EUの実像と論理』（岩波書店、2013年）（読売中央公論・吉野作造賞受賞、2014年）、The Presidency of the European Commission under Jacques Delors: The Politics of Shared Leadership (Macmillan/St Martin's, 1999) 等、著書多数。

<ウクライナ紛争の衝撃 (2)経済>

◎ヨセ・リザル・ダムリ インドネシア戦略国際問題研究所 (CSIS) 所長

インドネシア戦略国際問題研究所 (CSIS) 所長。国際貿易、地域統合、バリューチェーンのグローバル化が専門。また、インドネシア・サービス・ダイアログ (ISD) やアジア太平洋貿易研究・研修ネットワーク (ARTNeT) など、インドネシアや東アジアの研究・研修ネットワークに活発に関与している。インドネシア大学経済学部で国際経済学の講義を担当している他、地元紙や全国紙に寄稿している。インドネシア大学経済学部で経済学士号を取得後、キャンベラのオーストラリア国立大学開発研究センターで学び、開発経済学修士号 (MEcDev)、またスイスのジュネーブにある国際問題研究所 (HEI) にて国際経済学の博士号を取得。主な研究テーマは国際経済学、経済モデリング、財政分権、貧困と所得分配。

◎ティム・グルド 国際エネルギー機関 (IEA) チーフ・エネルギー・エコノミスト

2021年よりIEAのチーフ・エネルギー・エコノミストを務める。チーフ・エネルギー・エコノミストとして、IEAの幅広い活動や分析において、エネルギー経済に関する戦略的なアドバイスを提供。また、エネルギー供給・投資見通し部門の責任者として、IEAの主要刊行物である「世界エネルギー見通し (WEO)」を共同リードし、「世界エネルギー投資報告」を含む投資と金融に関するIEAの業務を監督している。2008年にIEAに入所。ロシアとカスピ海のエネルギーの専門家として活躍し、近年ではIEAのチーフエネルギーモデラーとともにWEOの企画・監督および主執筆者を担っている。IEA入所以前は、ブリュッセルで欧州・ユーラシアのエネルギー問題に取り組み、ウクライナを中心とした東欧で10年の経験を持つ。オックスフォード大学卒業後、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院でポストグラデュエート・ディプロマを取得。

◎ステファン・クレスト 欧州委員会ジョイント・リサーチ・センター総局長

2020年5月1日付で共同研究センター (JRC) の事務局長に就任。それ以前は、税制・関税同盟総局 (TAXUD) および情報学総局 (DIGIT) の総局長として、欧州委員会のデジタル変革を推進。欧州の公務員として30年以上のキャリアを持ち、EU予算、社会・環境政策に携わったほか、事務総長補佐を4年間務めた。事務局長としてステイブン氏が特に力を入れているのは、組織文化の近代化と、テクノロジーの活用と職員の意思決定への関与の強化に関する、欧州委員会内のイノベーションの推進である。特に、コミュニケーションと、政策とテクノロジーの接点に情熱を注いでいる。

◎阮蔚（ルアン・ウェイ） 株式会社農林中金総合研究所理事研究員

上智大学大学院経済学研究科修士課程修了。1995年より現研究所勤務。米国ルイジアナ州立大学アグリセンター客員研究員（2005年9月-2006年5月）。研究テーマとして「世界の食料需給、大豆貿易、アジアとアフリカ途上国の食糧自給、米中摩擦と食料貿易、デジタル農業の動き、中国農業の脱炭素の動向、中国の食料自給率向上対策と世界食料貿易への影響」に注力。主な著書は『世界食料危機』（日経BP 日本経済新聞出版 2022年9月9日刊行）など。

◎マハ・ヤフヤ マルコム・H・カー・カーネギー中東センター所長

マサチューセッツ工科大学（MIT）と英国建築協会附属建築専門学校（AA）で、社会科学と人文科学の2つの博士号を取得。レバノン、パキスタン、オマーン、エジプト、ヨルダン、サウジアラビア、イランなどで、国連機関や世界銀行などの国際機関や民間企業に対して、さまざまな問題についてコンサルティングを行う。ユネスコ「教育の未来」国際委員会、三極委員会のグローバルメンバー、ペイルート・アメリカン大学の「市民社会と市民のためのアスファリ研究所」の国際諮問委員会の共同議長、「Ana Aqra（私は読む）協会」の理事など、多くの諮問委員会のメンバーとしても活躍。近著に『Unheard Voices』など多数。『What Syrian refugees need to return home』（April 2018）、『Contentious Politics in the Syrian Conflict: Opposition, Representation, and Resistance』、『Visualizing Secularism and Religion, Egypt, Lebanon, Turkey, India』の共同編集者、『The National Human Development Report 2008-2009: Toward a Citizen's State in Lebanon』の監修兼主要著者。

★赤阪 清隆 公益財団法人ニッポンドットコム理事長／元国連事務次長

1948年、大阪府出身。京都大学、ケンブリッジ大学卒。1971年に外務省に入省。1988年GATT（WTOの前身）事務局、1993年世界保健機関（WHO）事務局、2000年に国連日本政府代表部大使を務める。2003年に経済協力開発機構（OECD）事務次長、2007年から2012年まで国連広報担当事務次長（広報局長）。2012年より2020年まで、公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長。2022年より現職。近著に、「国際機関で見た「世界のエリート」の正体」（中公新書ラクレ）、「世界のエリートは人前で話す力をどう身につけるか」（河出書房新社）がある。

◆パート3：米国主導の国際秩序の行方

◎マイケル・グリーン シドニー大学アメリカ研究センター所長・教授

シドニー大学アメリカ研究センター所長・教授。また、ワシントンDCにある戦略国際問題研究所(CSIS)のキッシンジャー・チェア（非常勤）も務める。戦略国際問題研究所(CSIS)ではアジア担当上級副所長としてプログラムを主導し、同時にジョージタウン大学で近現代日本政治・外交政策の教授兼アジア研究部長としてアジア研究を指揮した。2001年から2005年まで、国家安全保障会議において、国家安全保障問題担当大統領特別補佐官、アジア担当上級補佐官を務めた。主な著書に『By More than Providence: Grand Strategy and American Power in the Asia Pacific since 1783』（2018年）、『Line of Advantage: Japan's Grand Strategy in the Era of Abe Shinzo』（2022年）。ポッドキャスト「The Asia

Chessboard」の司会、アジア・ファウンデーションとラジオ・フリー・アジアの理事、アジア・グループ・コンサルティングのシニア・アドバイザーを務める。

◎賈慶国（カ・ケイコク） 北京大学教授

北京大学国際関係学院教授、前院長。コーネル大学 Ph.D. (1988)。中国人民政治協商会議全国委員会常務委員、中国アメリカ学会副会長、中国国際関係学会副会長、中国日本研究学会副会長を務める。米中関係、兩岸関係、中国外交に関する著作多数。

◎サンジョイ・ジョシ オブザーバー研究財団（ORF）会長

オブザーバー研究財団（ORF）の会長兼最高経営責任者。過去 10 年にわたり、ORF を指揮、インドでもハイクラスなシンクタンクとして成長させている。1983 年、インドの州職員として勤務後、2009 年以降英国国際問題戦略研究所（IISS）にて客員研究員、米国スタンフォード大学にてエネルギー・持続可能な開発プログラムの特別客員を歴任。テクノロジー、エネルギー、開発の世界について、グローバルな変化や新興国が直面する成長と雇用への挑戦という文脈で、講演、出版、コメントを行っている。YouTube で「India's World」という世界情勢に関する解説を定期的に配信しており、ポッドキャストでも視聴可能である。

◎ローリー・メドカーフ オーストラリア国立大学ナショナル・セキュリティ・

カレッジ学長

オーストラリア国立大学国家安全保障カレッジ学長。ローウィー研究所をはじめ、外交、学術、情報分析、ジャーナリズム、シンクタンクなど幅広い分野で活躍。豪州の情報機関である国家評価局で上級戦略分析官を務め、外交官としてインド、日本、パプアニューギニアに駐在した経験を持つ。インドをはじめ、さまざまな国との非公式外交で主導的な役割を果たした。メドカーフ教授は、著書『Contest for the Indo-Pacific』（海外では『Indo-Pacific Empire』として出版）にて提示されたインド太平洋戦略構想のオピニオンリーダーとして世界的に認められている。2022 年 6 月には、国際関係と高等教育への多大な貢献が認められ、オーストラリア勲章のメンバーに任命された。

◎ティエリ・ド・モンブリアル フランス国際関係研究所（IFRI）理事長

1979 年に設立されたフランス国際関係研究所（IFRI）の理事長。フランス国立芸術工芸学校名誉教授。2008 年「世界政策会議」を発足。1992 年よりフランス学士院道德・政治学アカデミー会員、海外のアカデミー会員を多数務めている。1974 年から 1992 年までエコール・ポリテクニクの経済学部長、1993 年から 2001 年まで戦略研究財団の初代理事長を務めた。フランス外務省の政策企画スタッフ（Centre d'Analyse et de Prévision）の設立を任せ、初代ディレクターを務めた（1973-1979 年）。

「Action and Reaction in the World System」など、20 冊以上の著書があり、そのうちの数冊は各国語に翻訳されている。「The Dynamics of Economic and Political Power」（UBC Press, Vancouver, Toronto, 2013）、「Living in Troubled Times. : A New Political Era」（World Scientific, 2018）がある。レジオン・

ドヌール勲章グラン・オフィシエ、フランス国立メリット勲章グラン・オフィシエを叙勲。日本では旭日双光章（2009年）、その他フランス政府および複数の外国政府から国家勲章を授与されている。エコール・ポリテクニクとエコール・デ・マイنزを卒業し、カリフォルニア大学バークレー校で数理経済学の博士号を取得している。

◎佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長

公益財団法人日本国際問題研究所理事長。1974年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。北米第二課長、北東アジア課長、内閣総理大臣秘書官、総合外交政策局審議官、経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任。2018年6月より現職。多くの対外経済交渉を手掛け、また「六者協議」の日本代表、G8サミットの政務局長を務めるなど、外交官として豊富で幅広い経験を持つ。岡山県出身。

★市川 とみ子 日本国際問題研究所所長

1985年東京大学法学部卒業、外務省入省。キングス・カレッジ・ロンドン大学院修士課程修了(国際関係・戦争学修士)。外務本省においては、西欧課長、経済統合体課長(EU)、不拡散・科学原子力課長、経済局政策課長等を務め、在外においては、在英国大使館、在ウィーン国際機関日本政府代表部等にて勤務。国際機関においては、UNPROFOR(旧ユーゴスラビア国連PKO)政務官、国際原子力機関(IAEA)事務局長特別補佐官を経験。2020年7月から(公財)日本国際問題研究所所長代行、2020年12月から現職。